

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200202		
法人名	有限会社 ヒューマンケア		
事業所名	グループホーム 小春の家		
所在地	〒822-1402 福岡県田川郡香春町大字鏡山268番地 Tel 0947-32-7889		
自己評価作成日	令和03年03月19日	評価結果確定日	令和03年04月07日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で生産した旬の食材を使用した食事を提供し、和食・洋食・中華料理等、様々な食事を楽しんでいただけるように一から献立を考えすべて手作りで提供している。個々に応じたサービスを提供できるよう支援し利用者様との絆を結ぶように努めている。以前はなるべく多く外出の機会をつくっていたが、昨今の情勢を鑑み、敷地内、近所での散歩を継続して気分転換や季節の移ろいを感じてもらえるように配慮している。かわりに、カラオケや塗り絵など個別の屋内レクに力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年03月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「小春の家」は、田川市郊外の自然豊かな広い敷地の中に2003年7月に開設された18名のグループホームである。本人や家族の希望するかかりつけ医の受診に対応し、協力医療機関、看護師とも密に連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。春先には、土筆、蒔、筍等、旬の食材を使って調理上手な職員が作る美味しい料理を提供し、週1回はパン屋の移動販売を利用して好きなパンを選んでもらう等、「食」を大切にしたい取り組みを行っている。コロナ禍で人混みへの外出は控えているが、天気の良い日には敷地内や近所への散歩に出かけて気分転換を図り、室内では将棋やカラオケ、塗り絵を楽しんでいる。長く勤める職員との馴染みの関係の中で、利用者が安心して自分らしく暮らすことが出来るよう、一人ひとりに丁寧な支援に取り組んでいる、グループホーム「小春の家」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

#REF!

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に向け取り組めるよう互いに確認し合い常に努力している	ホーム独自の理念を玄関入り口に掲示し、朝礼やミーティング時に、理念について振り返る機会を設け、職員間で共有している。管理者と職員は、地域に根ざしたサービス、利用者の人格を尊重し、利用者個々に応じた介護サービスの提供を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族や地域の方々に行事は参加されていたがコロナ禍により密に出来ていない	家族会の時に、近隣の保育園児を招いて交流し、楽しい時間を過ごしたり、ホームの餅つきに地域の子どもが集まって参加したり、搗いた餅を近所に配る等、少しずつ地域との関係が始まっていたが、この1年は新型コロナウイルス感染症対策のため、交流は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援してきた介護方法等地域に活かし還元してきたが訪問等が少なくあまり行かせていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行事やサービス内容に関して報告し意見をもとめご意見を頂いている	新型コロナウイルス感染症対策のため、運営推進会議は書面でのやり取りで行い、行事、取組、利用者状況、今後の予定、新型コロナウイルスについて、身体拘束について等、議題に沿った内容の報告書とそれに対する回答用紙を委員に配布して、意見があればサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密に意見や助言を頂いたりより良い介護が提供できるよう意見を聞く事で協力関係は築いている	管理者は、ホームの空き状況や事故の報告を行政に行い、アドバイスや情報提供を受けている。運営推進会議が対面で行われていた時には、香春町役場職員、地域包括支援センター職員の出席があり、意見や情報交換を行いながら協力関係を築いていた。(現在は書面会議を開催)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限のないよう常に見守りし安全確保しているスタッフ一同マニュアルを把握する事で身体拘束を実施しない様に努めている	職員会議時に、マニュアルを基に、改めて身体拘束となる具体的な行為の確認や業務中に気づいた事、気になる事を話し合い、職員間の共通理解に努めている。また、言葉遣いや対応に注意して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議の議題に毎回挙げて報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し無理な言葉などの静止にならないよう職員間で話し合いを行い状態把握と対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の制度について説明分を置いており職員が把握できるようにしている成年後見制度に関しては職員が活用できる理解は浅くもっと学ぶ必要があると感じている	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットや資料を用意し、利用者や家族から相談があれば、制度について分かり易く説明し、申請手続きが出来るよう支援に取り組んでいる。現在、制度を活用している利用者がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、個々に説明し不明点などは理解せれるまで説明し同意して頂く利用契約、重要事項説明書は変更があれば事前に説明し同意を得る		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会、面談日時に運営に関するご家族からの質問や意見があった場合は但しに上司へ報告を行っている介護計画に反映できるように努めている	日常の関わりの中で、職員は利用者の意見や要望を聴き取り、実現できるよう取り組んでいる。家族については、コロナ禍で面会や家族会、運営推進会議が出来ない為、電話やメール、ライン等でコミュニケーションを取りながら家族の意見や要望を聴き取り、出された意見や要望は出来る限り迅速にホーム運営や介護サービスに反映させている。	月1回のホーム便りの発行を復活し、利用者の健康状態や暮らしぶりを家族に伝える事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に発言し易い環境にあり引継ぎやミーティングの時間を利用して意見や提案を出し合い運営に反映させている	朝夕のミーティングの中で、職員が意見や要望、気付き等を出し合い、出来る事から解決に向けて取り組んでいる。内容は申し送りノートに記録し、職員間で情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に心見の健康を提唱し職員が働きやすい環境で就業できるように配置をしている本人の希望を取り入れつつお互いに協力して環境を整るよにしている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員のスキル、年齢や性別などに制限せず就職後も向上心を持って働けるよう工夫し権利が保証されている	管理者は、職員一人ひとりの能力や特技を把握し、適材適所に配置して、職員が生き生きと楽しく働ける職場環境を整えている。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人物本位で採用している。また、職員の処遇改善にも取り組み、長く勤める職員が多く職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重の理念に対する理解を深め共有する事で職員と共に人権教育啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権を守る介護の在り方を職員間で話し合っている。言葉遣いや対応などで気になることは注意し合い、利用者を人生の大先輩として敬愛し、常に利用者を敬う気持ちを持ってケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が必要とする研修を受けられるよう配置し職員の知識、技術の向上、育成に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修等に参加し同業者と交流を深め意見を交換している、同法人の施設とも情報交換しながらサービスの質の向上に努めている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学時には困っていることや不安、要望を伺い思いを受け止め質問があれば納得いくよう説明をしている又空きがあれば体験入所が出来る事も伝えている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあった時だけではなく普段の面会時に顔を見たら声をかけ近況等伝えるようにしている。この都度細やかな事でも家族に連絡し話し合いが出来る様努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時、生活面、健康面、経済面等の把握しグループホームに限らず本人に適したサービスが利用出来るように施設、事業所とも連携を取り対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、料理は職員だけで行わず出来る限り利用者とコミュニケーションを図る為に一緒に行うよう努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加していただけるように心がけている、電話等で利用者の生活の様子をお知らせあい家族との一体感が失われないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大切な方々との絆が途絶えないよう手紙や電話で話せるよう努め家族の理解を得ながら関係が継続されるよう支援している	コロナ禍以前は、利用者の親しい友人や知人の面会も多く、居心地良く過ごせるように配慮してきた。現在は、面会が制限されているが、電話の取り次ぎや手紙のやり取りを支援する等、馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しやすい方にはスタッフが関わり他者と交流しやすいようには橋渡しをしレクリエーションを交えコミュニケーション作りに努めている		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしなが、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談を受けた際は対応を図っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から聞き取り個々の思い、希望に応えられる様に努め、思いの表出困難な時には本人本位になって模索している	日々の暮らしの中で、職員は利用者の思いや意向を聴き取り、家族と相談しながら、思いが実現出来るように取り組んでいる。重度化の為、意思を伝えることが困難な利用者には、職員が寄り添い、話しかけ、その表情や動きから思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによる聴き取り以外に家族の協力のもとこれまでの暮らし方など把握し希望に沿った生活を送って頂けるよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、排泄、水分量など記録し身体、心理の変化に気づいた事があれば申し送り、引継ぎで利用者方の現状の把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族からの情報や意向を取り入れ心身の状態日々の様子等でアセスメントし現状に即した計画を作成し評価や見直しも職員全員で意見交換しおこなっている	担当職員は、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、申し送りやカンファレンスで職員の意見を収集し、看護師、主治医の意見を取入れた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、ケアチェック表で日々の状態を確認し、定期的にモニタリングを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に則したケアの実践状況や毎日の状況に気付いた事を個別記録し情報共有し実践に活かしている、介護計画の評価、見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画書によりサービスの提供しているがその時に生まれるニーズへ柔軟に対応し看護師、職員の情報共有を行いサービス向上に努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな生活が送れる為に地域にある様々な資源や情報を把握し利用者方に情報共有をしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と密に連携を取り必要に応じて看護師、職員が受診の同行をしている。家族や本人の希望を聞いて他の医療機関への受診を行い定期的な往診体制も整っている	入居時に、利用者や家族の希望を聴いて主治医を決定し、以前からのかかりつけ医が主治医である利用者が8名、ホーム提携医の往診を受けている方が10名である。受診については、職員、看護師が同行し、結果は家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々発生する特変や異変に気づき情報の共有を行い適切なケアが出来るように連携を図っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に利用者が適切な医療、看護を受けられるよう必要適切な情報提供に努め退院後のケアを引き継ぐ為医療機関者から情報の共有出来るようにしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向を伺い協力医療機関、看護師との連携を図りチーム支援が出来るように努めている	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について説明し、利用者、家族の意向を聴いている。利用者の重度化に伴い、家族と密に話し合い、主治医、看護師、介護職員で方針を共有し、利用者が安心して終末期を過ごせるよう、ぎりぎりまで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル、事故防止及び対策マニュアルを作成し熟知徹底すると共にマニュアルにそって内部研修をおこなっている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時直ちに適切な行動が取れるよう利用者方と共に訓練を実地しマニュアルを作成し食料や飲料水非常時用品を確保している	マニュアルを作成し、2階の利用者の避難方法については消防署の指示により、火元から遠い居室で待機する事を確認している。災害時に備えて非常食、飲料水を3日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の確認、守秘義務の説明を受け利用者方一人ひとりを尊重し個々の思いや個人に配慮したケアを心掛けている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしさを大切にした支援を心掛けている。自由に過ごしてもらうことを基本とし、将棋を指す利用者はいまだ職員よりも強く、入居年数も13年になるがADLは維持している。利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても周知徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でコミュニケーションを大切にし、本人の思いや希望を伝えやすい環境作りを行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた日々の支援を心がけ、四季折々の作品と一緒に作成しレクリエーションを行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでは習慣を尊重しながら清潔を心がけ季節や場所に適した身だしなみをアドバイスをし支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった食材を使い利用者方と一緒に食事作りをしたり片付けをする事によりコミュニケーション図りながら楽しく食事はできるよう支援している	職員は、利用者の嗜好を聴き取り献立作りに反映し、旬の食材を使って、職員が交代で彩りの良い美味しい料理を提供している。利用者の力に応じて箸の筋取りや土筆の袴取り等を、職員と一緒にやっている。また、職員が1名、検食を兼ねて同じ料理を食べ、会話が弾んで楽しい雰囲気である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は一日1600キロカロリーにて水分は一日1200CCを確保できるよう支援し、一人ひとり状態や能力に応じた対応行いながら支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり声掛け行いながら利用者方に応じた口腔ケアを行いながら支援に努めている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により一人ひとりの排泄状況習慣しその方に応じた対応を行いながら排泄、排尿の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、タイミング良く声掛けし、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌や植物繊維を取り込み、多くの水分摂取して工夫をおこなっているまたその利用者に応じた運動を取り込む事により予防に努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが利用者方の希望により時間、曜日を気にせず入浴が出来るように支援している	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して、夏場は週3回、それ以外は週2回の入浴を午前中に実施している。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり、職員が交代して声掛けし、無理強いのない入浴の支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じた対応行い自室にて臥床して頂いたり休憩していただきその方に応じた支援をおこなっている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の訪問日に職員が説明を聞き職員全員が周知し服薬管理確認し状態の変化に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事自分が持っている力を生かして頂けるよう個々にあった支援をしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけるように支援している	季節にあわせ利用者方の要望に合わせ花見をしたり月に一度買い物に行きその人がいけない場所でも行けるよう家族に説明し支援を行っている	コロナ禍以前は、車椅子対応の車両に乗って、季節毎の花見を始め、積極的に外出の支援に取り組んできた。現在は、人混みへの外出を控えているが、天気の良い日には広い敷地を利用した外気浴や近隣への散歩を行い、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っているが家族希望がある場合は一人ひとり希望に応じて対応行い支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話制限はなく自由に家族と連絡が取れるよういつでも貸し出し支援を行っている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが心地よい空間で生活が送れるよう玄関、居間、トイレ、浴室は自由に行き来していただき施設の庭も職員と一緒に散歩もしていただき居心地よく生活が送れるよう工夫をしている	季節の花を生け、清掃を丁寧に行い、清潔で気持ちの良い生活環境である。香春岳を望む窓際の畳のスペースに腰掛けて将棋を指す利用者や職員とソファーに座り歌を口遊む利用者、3000ピースのパズルに挑戦中の利用者、モップで床を拭く利用者等、一人ひとりが自由であるがままに暮らしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテレビ、ソファー、テーブル椅子等が設置され利用者方と工作したものを展示し利用者方が思い出が残るよう玄関にもイベントの写真を飾り工夫している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人希望にて危険な物でなければ自由に設置や配置をして頂きその人の意見や意思を尊重し本人が居心地良く過ごせるよう工夫している	利用者の馴染みの家具や大切な物、本人の希望で仏壇や冷蔵庫等を持ち込んで貰っている。清掃、換気を頻繁に行い、利用者が気持ち良く過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じたサービスを提供し出来る事はなるべくして頂き、出来ない事を利用者方と寄り添いながら行い自立した生活が送れるように工夫している		